

人間教育専攻

幼年発達支援コース

指導教員 浜崎隆司

黒田みゆき

従来の研究は、絵本の読み聞かせの経過尺度や心理的分析から、読み聞かせは、読み手と聞き手の愛情や絆の強化、人間関係への影響、情緒的安定をもたらすなどの効果があることを明らかにしている(今井・中村 1993: 川井・高橋・古橋, 2008: 高橋・首藤 2005: 森 2014: 牧野・皆川 2002 : 佐々木 2006 等)。

そこで本研究では、絵本の読み聞かせにおける読み手と聞き手の親密な関係性や情緒的な結びつきに着目し、読み聞かせにおける読み手と聞き手は双方向に影響を与えている関係性なのではないかと考えた。この仮説を検証するために、聞き手である子どもに着目し、以下のことについて検討した。大学生を対象とした質問紙調査から、①聞き手は読み聞かせをどう捉え、②読み手に対してどのような印象をもっているのか、また、③読み手と聞き手の相互関係が、聞き手の将来に及ぼす影響、④読み聞かせのどのような要因が聞き手の心の満足感にどのような影響を及ぼすのかについて明らかにした。さらに、子どもだけではなく読み手である親の立場からも、読み聞かせ時の心理的状态を検討し、⑤読み手と聞き手の情緒的相互作用について生理的指標をもちいて分析した。

まず、①については、計量テキスト分析ソフト KHCoder をもちいて、絵本の読み聞かせの思い出に関する質的分析を行った。共起ネットワークでは父親、母親、友だち、ボランティアによる読み聞かせがサブグラフとして抽出され

た。その中でも特に共起ネットワークの中心性が高かったのが、母親による読み聞かせであり、母親による読み聞かせは睡眠前後に高頻度で行われ、好意的な印象を子どもに残すことが明らかとなった。この結果から、読み聞かせには読み手—聞き手間に愛情伝達の機能があることが示唆された。

読み聞かせの思い出は、読み手との思い出が中心となって抽出されたため、次に②読み手の印象に関する質的分析を行った。

読み手には父親、母親、友だち、保育者が挙げられた。読み聞かせにおける聞き手の心情に関する具体的な記述内容から読み手の声音や視線の交流、読み聞かせ途中の質問挿入など複数の要素が総合的に、読み手への印象を形成していることが明らかとなった。さらに、聞き手にとっての読み手はポジティブな印象として記憶に残っていることが明らかとなった。

③については、読み手と聞き手の情緒的交流が伴う読み聞かせは人生という長期間に渡りどのような影響を及ぼすのかについて検討した。

読み聞かせの影響については分析データ数を増やすために同条件で2回調査を行い、その結果読み聞かせが人生に及ぼす6つの影響が明らかとなった。さらに、自由記述すべてに複数の研究者でネーミングを行った結果からは、感性・情緒に関する記述が半数以上を占めており、読み聞かせの結果として傾聴能力や学習効果を得るだけではなく、読み手との情緒的関係性が、

共感性や本好きなどの影響を及ぼしていることが示唆された。

④については、読み手の行動を媒介とした読み手と聞き手の情緒的な関わりについて明らかにした。「母親」は優しい声や温かい雰囲気などの読み手の働きかけを通して、互いに「親密さ」を高めていることが明らかとなった。一方で、「保育者」や「ボランティア」など教育機関で行われている読み聞かせは、読み手の読み方の技巧性が心理的な関係性へ結びつく要因となっている。さらに、読み手と聞き手の情緒的な関わりが両者に及ぼす影響については、(1) 声音を変えるなどの「読み方」の表現の工夫や技術的な卓越性(2) 読み聞かせの時間を楽しんでいる読み手自身の感情の表出(3) 目を合わせるなどの視線の交流(4) 子どもに語りかけるような優しい声などの4つの要因があることが明らかとなった。

⑤については、生理的指標をもちいて、読み聞かせにおける読み手と聞き手の相互作用に着目した。また、読み手の心理面に関してはインタビュー調査と質問紙法をもちいて明らかにした。親子の総合数で見ると、14組中、身体的接触の有無に関わらず子どもにも親にも鼻部皮膚温度の上昇が認められたのは11組であった。また、子どもの鼻部皮膚温度の上昇が認められず、親だけに鼻部皮膚温度の上昇が認められることはなかった。本研究結果から、読み聞かせ時には身体的接触の有無に関わらず親子双方ともリラックス効果があることが明らかとなり、親は単独で鼻部皮膚温度の上昇が認められなかったことから、子どもが嬉しそうにしている様子や興味をもって絵本を見ている姿から、読み手である親もリラックスしていくのではないかと考えられた。そこで、インタビュー調査と質

問紙調査から、読み手である親の心理的状态を明らかにした。インタビュー調査から、母親は、子どもの表情を見て喜びやイメージの共有や同調に楽しみを感じているという声が多かった。他の幼児との交流場面と比べると、短時間で双方の満足感を得られること、スキンシップの場になっているという意見もあった。質問紙調査結果からは、子どもの様子を「かわいい」と感じたり「癒されたり」読み手である親も「嬉しい」「あたたかい」気持ちになるという聞き手の姿から読み手は読み聞かせの満足感や充足感を得ていることが明らかとなり、サーモグラフィをもちいた鼻部皮膚温度の上昇が親子同時に上昇したという結果とも一致した。

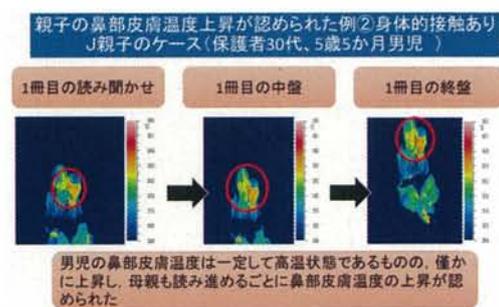


図1 親子の鼻部皮膚温度上昇の一例

以上のことから、読み聞かせには読み手と聞き手の情緒的互換性があるという仮説については、読み聞かせにおける快感情の生起には親子の相互性があることが質的研究と生理的指標をもちいた2つの視点の研究から明らかになった。また、そのような快感情体験は聞き手にとって人生という長期間に渡り肯定的な影響を及ぼし、読み聞かせにおいて形成される親子間の情緒的関係性は将来的な対人コミュニケーションや国語教科や本に対する好意的感情という嗜好性の形成や知的好奇心の広がりなど様々な側面において影響することが明らかとなった。